

ソーシャル・ネットワーキング・サービス上での 個人情報公開に関する心理学的研究 —プライバシー意識に着目して—

研究代表者
常磐大学人間科学部
太幡直也

問題

はじめに 近年、社会的ネットワークをインターネット（以下、ネット）上で構築する、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Social Networking Service、以下 SNS）の利用者数が増加している。日本では、最大規模を誇るミクシィ（mixi）には、約 2471 万人が登録している（2011 年 7 月現在）（株式会社ミクシィ, 2011）。SNS は、友人・知人がコミュニケーションする場としてだけでなく、共通の趣味を通して未知の他者と関係を構築する場としても使われており、多様なコミュニケーションを可能にしている。一方で、社会的ネットワークを構築する過程で個人情報を公開する必要がある。そのため、公開する個人情報の種類によっては、他者からの迷惑行為の被害に遭いやすくなる可能性も考えられる。

SNS に関するこれまでの研究では、利用実態に着目した研究（川浦・坂田・松田, 2005）、利用と満足に関する研究（小寺, 2009）、SNS 上での利用者の行動分析に関する研究（山口・鳥海・石井, 2009）などに関する研究が挙げられる。しかし、SNS 上での個人情報公開はほとんど着目されていない。多くの者が SNS を利用している現状を鑑みると、多様なコミュニケーションを可能にする SNS をより有効かつ安全に使うために、SNS 上での個人情報公開に着目し、個人情報公開を規定す

る心理的要因を検討する必要があると考えられる。加えて、個人情報の悪用による迷惑行為の被害を抑止する方策を模索する必要があると考えられる。

以上のことから、本研究では以下の二点を検討する。第一に、SNS 上での個人情報公開を規定する心理的要因を検討する。心理的要因として、特にプライバシー意識に着目する。第二に、個人情報公開と迷惑行為の被害経験との関係を検討する。上記の点を明らかにすることで、人々が情報化時代を生き抜くための示唆が得られると期待される。

プライバシー意識 プライバシーは、自己情報に対する他者からのアクセスの規制とされている（Altman, 1975; Westin, 1967）。プライバシーに関するこれまでの研究では、プライバシーを志向する者の行動が着目されてきた（岩田, 1987; Marshall, 1972; 吉田・溝上, 1996）。例えば、岩田（1987）は、プライバシー維持のための行動として、独居、精神生活の非公開、病気・身体的欠陥の非公開の 3 因子を示した。

近年では、プライバシーを感じる内容にも関心が向けられるようになってきた（Burgoon, Parrott, LePoire, Kelley, Walther, & Perry, 1989; DeCew, 1997）。例えば、Burgoon, et al.（1989）は、プライバシーの次元として、身体、社会、心理、情報の 4 次元を提唱した。佐藤・太幡（2009a）と太幡・佐藤（2009）は、Burgoon, et al.（1989）の議論を踏まえ、プラ

イバシーを感じる内容として連絡先、過去の出来事などの 11 の内容を、プライバシーを感じる理由として、不安・恐怖、遠慮期待などの八つの理由を示した。また、太幡・佐藤 (2010) は、プライバシーを意識しやすい者はあまり意識しない者と比べ、多くの種類の内容にプライバシーを感じていることを示した。そして、彼らは特に、過去の出来事や悩み事にプライバシー意識を感じやすいこと、プライバシーを感じる理由として、遠慮期待、羞恥心、自己評価低減の回避を挙げやすいことを明らかにした。

それぞれの自己情報へのプライバシー意識の強さを測定する尺度も開発されている。佐藤・太幡 (2009b) はプライバシー次元尺度 (MPS) を開発した。この尺度では、自己情報は趣味嗜好性、最近過去の経験、所有物、連絡先、外見身体的特徴、価値観の 6 次元に分類されている。また、佐藤・太幡 (2011a) は、ネット版プライバシー次元尺度 (MPS-I) を開発した。この尺度では、自己情報は自伝的情報、属性情報、識別情報、暗証情報の 4 次元に分類されている。

一方、これまでの研究では、プライバシー意識が対人行動に影響を与えるか否かは明らかにされていない。しかし、自分の連絡先にプライバシーを意識しないことで連絡先を不用意に教えてしまいやすいといったように、プライバシー意識は対人行動に影響を与えると想定される。また、プライバシー意識が対人行動に影響する可能性を示唆する研究もある。佐藤・太幡 (2011b) は、ネット上での自己情報のそれぞれの次元へのプライバシー意識とプライバシー対策行動には正の相関がみられることを示している。以上の議論を踏まえると、プライバシー意識が低いと、多くの他者に個人情報を公開してしまう可能性や、公開する個人情報に自己に対する事柄を多く表出してしまう可能性が考えられる。

個人情報公開を規定する要因 本研究の第一の検討点は、SNS 上での個人情報公開を規定する心理的要因を検討することである。個人情報公開として、個人情報を他者に公開している範囲と、公開する個人情報に自己に関する事柄を表出している程度 (以下、内容の表出性) に着目する。

本研究では、個人情報公開を規定する要因として、主にプライバシー意識に着目する。佐藤・太幡 (2011b) の知見を踏まえると、プライバシー意識は対人行動に影響すると想定される。したがって、プライバシー意識が低いほど、個人情報を多くの他者に公開しており、また、内容の表出性が高いと想定される。本研究では、自己情報へのプライバシー意識を測定するために、佐藤・太幡 (2011a) の MPS-I を用い、自己情報へのプライバシー意識を測定する。

本研究では、プライバシー意識以外の要因として、リスク行動に関する要因にも着目する。具体的には、以下の二つの要因に着目する。第一に、準拠集団の成員から人気を得たいという欲求 (以下、人気希求) (Santor, Messervey, & Kusumakar, 2000) である。Christofides, Muise, & Desmarais (2009, 2010) は、人気希求の高い者ほど、Facebook (SNS の一種) 上で多くの個人情報を公開していることを示した。したがって、人気希求が高いほど、個人情報を多くの他者に公開しており、また、内容の表出性が高いと想定される。第二に、犯罪被害に対する懸念である犯罪不安である。犯罪不安が低いほど、犯罪被害を避けようとする意識が低いと考えられる。佐藤・太幡 (2011b) は、犯罪不安とプライバシー対策行動の関係を検討し、犯罪不安へのリスク認知が低い者にはセキュリティ対策をとっていない者が多いことを示した。したがって、犯罪不安へのリスク認知が低いほど、個人情報を多くの他者に公開しており、また、内容の表出性が高いと想定される。

個人情報公開と迷惑行為の被害経験との関連

本研究の第二の目的は、個人情報公開と迷惑行為の被害経験の関係を検討することである。この点を検討することで、個人情報の悪用による迷惑行為の被害を抑止するための示唆が得られると期待される。

個人情報公開と迷惑行為の被害経験には、正の関係が見られるものがあると想定される。例えば、自分の連絡先を不用意に教えてしまうと、知らない者から連絡を受けるといった迷惑行為の被害に遭いやすくなると想定される。本研究では、佐藤・太幡 (2011b) のネット上の迷惑行為の被害に関する項目に加え、ミクシィ独自に想定される迷惑行為の被害を加えて検討する。

研究の概要 本研究では、SNS は若年層にも多く利用されていることを鑑み、SNS 利用者に広く回答を求めめるために、オープン型ウェブサイト調査を実施する。また、SNS によって個人情報の公開方法が異なることから、ミクシィ利用者を対象とする。ミクシィを選択した理由として、以下の二点が挙げられる。第一に、2000 万人以上の利用者がいる国内で最大規模の SNS である点である。第二に、利用者が個人情報の種類ごとに公開するか否かを自由に設定できる点である。本研究では、ミクシィでのプロフィールと日記上での個人情報公開に着目する。

方法

調査対象者 インターネットアンケートサービス“gooリサーチ”の消費者モニター(659,508名、2011年4月1日現在)を対象とした。まず、予備調査として、ランダムに選ばれた40,000名に調査ページのURLを含むメールを配信した。そして、主に利用しているSNSサイトに回答を求め、9,817名から回答を得た。続いて、本調査として、予備調査でミクシィを主に利用していると回答した

1,800名に調査ページのURLを含むメールを配信した。そして、1,051名(男性468名、女性583名)から回答を収集した¹。平均年齢は36.76歳($SD = 10.07$)であった。データ品質の劣化を防ぐため、事前データとの照合により性別や年齢を偽っている可能性のあるデータや、きわめて短時間で回答されたデータを削除した。調査対象者の属性をTable 1に示す。

Table 1
調査対象者の属性 (N=1051)

	属性	度数
性別	男性	468
	女性	583
年代	10代	19
	20代	248
	30代	411
	40代	253
	50代	95
	60代以上	25
居住地域	北海道地方	71
	東北地方	0
	関東地方	388
	中部地方	173
	近畿地方	252
	中国地方	48
	四国地方	23
ネット利用時間 (一日当たり)	2時間未満	594
	4時間未満	272
	6時間未満	126
	6時間以上	59

¹ 2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とその後の福島第一原子力発電所の事故の影響を受け、被害の大きかった東北地方、および茨城県、栃木県、千葉県に居住する利用者は調査対象から除外した。

調査時期 予備調査を2011年4月11日から15日、本調査を4月20日から21日に実施した。

予備調査の調査項目 予備調査として、年齢、性別、主に利用しているSNSなどに回答を求めた。

本調査の調査項目 調査項目は(a)～(f)であった。自分のMixiのサイトを参照しながら答えるように求めた。(a)プロフィール上での個人情報公開：プロフィール設定画面の“名前”などの八つの個人情報の公開の程度を4件法(1. 未記入・非公開、2. 友人まで公開、3. 友人の友人まで公開、4. 全体に公開)で回答を求めた²。また、プロフィールに写真や画像(以下、画像)を入れているかに2件法(1. 入っていない、2. 入れている)で回答を求めた。画像を入れている場合、全体向けの画像に自分の顔が映っている程度を3件法(1. 映っていない、2. 映っているがはっきりとは特定できない、3. はっきり特定できるように映っている)に回答を求めた。さらに、プロフィールの内容の表出性として、“詳しさ”などの4項目に、得点が高いほど表出性が高いことを示すように0から4の5件法で回答を求めた。(b)日記上での個人情報公開：日記執筆の頻度を4件法(1. 書いていない、2. ほとんど書いていない、3. ときどき書いている、4. 定期的に書いている)で回答を求めた。日記を書いている場合、公開範囲を5件法(1. 非公開、2. 仲良しに公開、3. 友人まで公開、4. 友人の友人まで公開、5. 全体に公開)で回答を求めた。また、日記の内容の表出性として、“詳しさ”などの4項目に、得点が高いほど表出性が高いことを示すように0から4の5件法で回答を求めた。(c)迷惑行為の被害経験：佐藤・太幡(2011b)のネット上の迷惑行為の被害に関する10項目に、Mixi独自に想定される迷惑行為の被害(例：知らな

い人からマイミクの追加リクエストを受けた)に関する8項目(独自作成)を追加した。そして、Mixiを利用する中での経験について、5件法(1. 全くない、2. 一度だけある、3. 二、三度ある、4. 数回ある、5. 何度もある)で回答を求めた。(d)個人特性：個人情報公開に関連すると想定される個人特性として、人気希求尺度(Santor, et al., 2000)の邦訳版に、“1. 全くあてはまらない”から“7. 非常にあてはまる”の7件法で回答を求めた³。また、犯罪不安尺度(荒井・藤・吉田, 2010)の下位尺度である犯罪被害リスク認知尺度に、“1. 全くそう思わない”から“5. 非常にそう思う”の5件法で回答を求めた。(e)インターネットでのプライバシー次元：佐藤・太幡(2011a)のインターネット版プライバシー次元尺度(MPS-I)26項目を用いた。それぞれの個人情報について、ネット上の匿名の不特定多数の人にどのくらい知られたくないかを、“1. 知られてもよい”から“4. 知られたくない”の4件法で回答を求めた。プライバシー次元尺度は、自伝的情報11項目(例：過去の出来事、普段の生活パターン)、属性情報8項目(例：性別、職業)、識別情報4項目(例：本名、顔写真)、暗証情報3項目(例：クレジットカードの番号)の4次元で構成されていた。(f)Mixi利用状況：マイミク⁴登録数、参加コミュニティ数に回答を求めた。また、Mixi利用頻度などに、“1. ほとんどしない”から“8. 毎日・何度も”の8件法で回答を求めた。

結果

調査対象者のMixi利用状況 調査対象者のMixiの利用頻度は、“毎日・数回”が21.88%

² 偽の情報を公開している場合、“偽の情報を公開”に回答を求めた。

³ 人気希求尺度の邦訳版の信頼性は、太幡・佐藤(2011)で検討した。結果の詳細は割愛する。

⁴ マイミクは、相互に友人関係として登録した他のMixi利用者である。

で最も多く、次いで“毎日・何度も”が 19.98%、“毎日・一度”が 13.23%となった。このことから、調査対象者の半数以上が、ほぼ毎日ミクシィを利用していたことが示された。一方、“一ヶ月に一度”が 11.51%、“ほとんどしない”が 8.56%と、ミクシィの利用頻度が低い調査対象者も見られた。また、マイミク登録数の平均は 29.09 ($SD=39.27$, $Min=0$, $Max=390$, $Med=15$)、参加コミュニティ数の平均は 31.10 ($SD=82.78$, $Min=0$, $Max=999$, $Med=8$) であり、調査対象者によって偏りがあった。

プロフィール上での個人情報公開 プロフィール設定画面にある項目の情報の公開範囲を Table 2 に示す。“性別”は全体に公開が、“現住所”は友人に公開が多く選択されていた。一方、“職業”、“所属”は未記入が、“名前”は偽の情報が多く選択されていた。また、内容の表出性 4 項目 ($\alpha=.84$) の平均値は、 $M=2.52$ ($SD=0.88$) であった。画像については、画像をプロフィールに設定している者は、77.74% (817 名) であった。画像をプロフィールに入れている者のうち、83.84%は全体向けの画像に自分の顔が映っていない画像を設定していた。自分の顔が映っているがはっきりとは特定できない者は 9.8%、はっきり特定できるように映っている者は 6.4% であった。

以上の結果から、プロフィール上での個人情報公開の程度は情報によって異なること、個人情報

を広く公開している者が存在することが示唆された。また、自分の顔が映っている画像を使用している者は少ないことも示唆された。

日記上での個人情報公開 調査対象者の 75.45% (793 名) が日記を執筆しており、ときどき執筆している者が 37.58% で最も多かった。日記を執筆している者のうち、44.39% は友人まで、31.02% は全体に公開していた。また、日記を執筆している者の内容の表出性 4 項目 ($\alpha=.84$) の平均値は、 $M=3.15$ ($SD=0.79$) であった。以上のことから、日記を書いている者は、内面的な個人情報を広く表出している傾向があることが示唆された。

個人情報公開を規定する要因 MPS-I の下位因子ごとの信頼性係数は、 $\alpha=.73 \sim .92$ であった。また、人気希求尺度、犯罪リスク認知尺度の信頼性係数は、それぞれ $\alpha=.92, .85$ であった。それぞれの尺度を構成する項目の合計値を項目数で除した値を算出した。Table 3 に、それぞれの尺度の相関係数と記述統計を示す。暗証情報は理論的最大値に近似し、標準偏差が小さいため、天井効果が見られたと判断される。そこで、暗証情報は以降の分析から除外した。また、PDS-I の下位因子同士の相関係数は高く、特に自伝的信息は残りの因子との相関係数が高かった。そこで、多重共線性が生じないように、自伝的信息は以降の分析から除外した。

Table 2
プロフィールにある 8 項目の情報の公開範囲 (%)

	偽の情報を 公開	未記入、 非公開	友人まで 公開	友人の友人 まで公開	全体に公開
名前	39.30	0.00	40.63	6.76	13.32
現住所	11.70	0.00	53.47	9.71	25.12
性別	3.33	0.00	30.92	6.76	58.99
誕生日	2.76	20.17	31.40	9.80	35.87
生まれた年	2.00	31.68	28.26	8.47	29.59
出身地	2.57	23.41	27.88	7.52	38.63
職業	3.24	38.82	23.79	6.57	27.59
所属	4.19	52.24	19.41	4.19	19.98

Table 3
それぞれの尺度の相関係数と記述統計 (N=1051)

	自伝的 情報	属性情報	識別情報	暗証情報	人気希求	犯罪被害 リスク 認知	M	SD
自伝的 情報	—	.73***	.67***	.25***	.02	.08*	3.26	0.66
属性情報		—	.56***	.05	.03	.13***	2.59	0.84
識別情報			—	.32***	-.03	.04	3.49	0.65
暗証情報				—	-.13***	-.06	3.94	0.23
人気希求					—	.10**	2.72	1.03
犯罪被害 リスク 認知						—	2.58	0.77

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

また、プロフィール上での個人情報公開については、プロフィール設定画面にある8項目は、情報の公開範囲において“偽の情報を公開”と回答した者を除いて回答項目から得点を算出した。画像は、回答項目から得点を算出した。日記上での個人情報公開については、回答項目から得点を算出した。それぞれ、得点が高いほど、情報を公開していること、情報の公開範囲が広いことを示す。

プロフィール上での個人情報公開を規定する要因を検討するために、MPS-Iの属性情報と識別情報、人気希求、犯罪不安を説明変数、プロフィールに関する個人情報公開を目的変数とし、重回帰分析（強制投入法）を行った。プロフィール設定

画面にある項目に関する結果をTable 4に、画像に関する結果をTable 5に示す。得られた主な結果は以下の三点にまとめられる。(a) 属性情報、識別情報にプライバシー意識が低いと、ほとんどのプロフィールや画像を多くの対象に公開していた。

(b) 属性情報、識別情報にプライバシー意識が低いと、プロフィールの内容の表出性が高かった。また、人気希求の高さ、犯罪被害リスク認知の高さもプロフィールの内容の表出性の高さと関連が見られた。(c) 人気希求、犯罪被害リスク認知は、一部の個人情報公開と関連が見られていたものの、多くの個人情報の公開範囲とは関連が見られなかった。

Table 4
プロフィール設定画面にある項目に関する個人情報公開を目的変数とした重回帰分析

	名前	現住所	性別	誕生日	生まれた年	出身地	職業	所属	プロフィール表出性
n	638	928	1016	1022	1030	1024	1017	1007	1051
説明変数	β	β	β	β	β	β	β	β	β
属性情報	-.07	-.22***	-.34***	-.24***	-.20***	-.30***	-.21***	-.07	-.19***
識別情報	-.26***	-.10**	-.05	-.13***	-.15***	-.10**	-.15***	-.23***	-.16***
人気希求	-.02	-.00	-.02	.00	.02	-.00	-.02	-.02	.06*
犯罪被害リスク認知	-.01	-.02	-.02	-.03	.00	-.01	.05	.08*	.12***
R^2_{adj}	.09***	.08***	.14***	.11***	.09***	.13***	.10***	.07***	.11***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

注：それぞれの情報において、“偽の情報を公開”と回答した者を除いて分析したため、分析ごとに人数が異なる。

Table 5
画像に関する個人情報公開を目的変数
とした重回帰分析

説明変数	画像 設定	全体公開 画像での 顔の表出
	<i>n</i>	<i>n</i>
	1051	817
	β	β
属性情報	-.20***	.01
識別情報	-.02	-.25***
人気希求	-.08*	.05
犯罪被害リスク認知	-.06	.06
R^2_{adj}	.05***	.06***

* $p < .05$, *** $p < .001$.

注：全体公開画像での顔の表出の分析は、画像設定をしている者のみを対象とした。

Table 6
日記に関する個人情報公開を目的変数
とした重回帰分析

説明変数	日記 執筆 頻度	日記 公開 範囲	日記 表出性
	<i>n</i>	<i>n</i>	<i>n</i>
	1051	793	793
	β	β	β
属性情報	-.18***	-.19***	-.23***
識別情報	-.11**	-.15***	.00
人気希求	-.03	-.06	-.05
犯罪被害リスク認知	.06*	-.05	.05
R^2_{adj}	.07***	.09***	.05***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

注：日記公開範囲、日記表出性の分析は、日記を書いている者のみを対象とした。

次に、日記上での個人情報公開を規定する要因を検討するために、MPS-Iの属性情報と識別情報、人気希求、犯罪不安を説明変数、日記に関する個人情報公開を目的変数とし、重回帰分析（強制投入法）を行った。結果をTable 6に示す。得られた主な結果は以下の三点にまとめられる。（a）属性情報、識別情報にプライバシー意識が低いと、日記の執筆頻度が高く、日記を広く公開していた。また、犯罪被害リスク認知が高いと、日記を執筆する頻度が高かった。（b）属性情報にプライバシー意識が高いと、日記での内容の表出性が高かった。（c）人気希求は個人情報の公開範囲とは関連が見られなかった。

迷惑行為の被害経験 ミクシィを利用する中での迷惑行為の被害経験をTable 7に示す。迷惑行為の被害経験は相対的に少ないものの、未知他者連絡被害、マイミク勧誘被害といった、他者からの望まない連絡を受ける者が比較的多いことが示唆された。

個人情報公開と迷惑行為の被害経験との関連

迷惑行為の被害経験は回答項目を得点とした。それぞれ、得点が高いほど、迷惑行為の被害経験が多いことを示す。なお、会話暴露被害、ウイルス被害など、95%以上の者が経験していない七つの被害（Table 7参照）は分析から除外した。

プロフィール上での個人情報公開と迷惑行為の被害経験との関連を調べるために、プロフィールに関する個人情報公開⁵と迷惑行為の被害経験との相関係数を算出した。プロフィール設定画面にある項目に関する結果をTable 8に、画像に関する結果をTable 9に示す。

⁵ 得点化の方法は、個人情報公開を規定する要因を分析する際の得点可能方法と同様である。得点が高いほど、情報を公開していること、情報の公開範囲が広いことを示す。

Table 7
 ミクシィを利用する中での迷惑行為の被害経験 (%)

	全くない	一度だけ ある	二、三度 ある	数回 ある	何度も ある
プライバシー 侵害被害	87.35	4.00	4.57	2.95	1.14
漏洩被害	88.11	5.71	4.00	1.90	0.29
情報公開被害	90.49	3.62	2.66	2.19	1.05
中傷被害	87.35	4.47	3.52	3.24	1.43
会話暴露被害	95.34	2.09	1.71	0.48	0.38
画像公開被害	96.48	1.52	0.86	0.67	0.48
未知他者連絡被害	36.35	6.18	18.84	25.21	13.42
マイミク勧誘被害	41.10	8.28	16.08	21.50	13.04
会への勧誘被害	89.72	2.76	3.52	2.00	2.00
コミュニティ 勧誘被害	79.83	4.76	7.99	4.00	3.43
コミュニティ 乗っ取り被害	98.19	1.05	0.48	0.10	0.19
セールス被害	91.63	2.66	2.09	1.81	1.81
スパム被害	82.59	2.85	4.66	5.71	4.19
ウイルス被害	97.81	1.05	0.67	0.19	0.29
クレジット被害	98.38	0.86	0.10	0.48	0.19
暗証番号被害	98.86	0.57	0.29	0.10	0.19
サイト誘導被害	90.68	3.14	3.24	2.19	0.76
金銭搾取被害	98.29	1.14	0.38	0.00	0.19

Table 8
 プロフィールに関する個人情報公開と迷惑行為の被害経験との相関係数

	名前	現住所	性別	誕生日	生まれた 年	出身地	職業	所属	プロ フィール 表出性
<i>n</i>	638	928	1016	1022	1030	1024	1017	1007	1051
プライバシー 侵害被害	-.04	-.01	-.01	-.02	.00	-.04	-.01	.04	.10**
漏洩被害	.02	.03	.02	-.05	.02	-.01	.01	.04	.13***
情報公開被害	-.03	-.02	-.00	-.01	.00	-.06	-.02	.04	.09**
中傷被害	.06	.08*	.05	.02	.02	.03	.05	.13***	.19***
未知他者連絡被害	.15***	.19***	.22***	.18***	.15***	.15***	.15***	.07*	.21***
マイミク勧誘被害	.13**	.19***	.22***	.18***	.13***	.19***	.19***	.11***	.23***
会への勧誘被害	.01	.03	.04	.01	.02	.01	.07*	.10**	.09**
コミュニティ 勧誘被害	.08*	.09*	.09*	.07*	.09**	.06*	.11***	.07*	.13***
セールス被害	-.00	.02	.04	.01	.06*	.03	.08**	.13***	.09**
スパム被害	-.06	.05	.01	-.01	.05	.01	.05	.05	.08*
サイト誘導被害	.01	.02	.04	.00	.08*	.02	.08*	.07*	.10**

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

注：それぞれの情報において、“偽の情報を公開”と回答した者を除いて分析したため、分析ごとに人数が異なる。

Table 9

画像に関する個人情報公開と
迷惑行為の被害経験との相関係数

	画像 設定	全体公開 画像での 顔の表出	
	<i>n</i>	1051	817
プライバシー 侵害被害			
	-0.03	-0.02	
漏洩被害	-0.03	-0.02	
情報公開被害	-0.06	.03	
中傷被害	-0.01	.05	
未知他者連絡被害	.19***	.03	
マイミク勧誘被害	.21***	.02	
会への勧誘被害	-0.05	.03	
コミュニティ 勧誘被害	.01	.06	
セールス被害	-0.06	.04	
スパム被害	-0.03	.01	
サイト誘導被害	-0.04	.05	

*** $p < .001$.

注：全体公開画像での顔の表出の分析は、画像設定をしている者のみを対象とした。

Table 10

日記に関する個人情報公開と
迷惑行為の被害経験との相関係数

	日記 執筆 頻度	日記 公開 範囲	日記 表出性
	<i>n</i>	1051	793
プライバシー 侵害被害			
	.07*	-0.03	.05
漏洩被害	.13***	-0.04	.05
情報公開被害	.04	-0.04	.03
中傷被害	.12***	.05	.11**
未知他者連絡被害	.20***	.06	.18***
マイミク勧誘被害	.24***	.05	.24***
会への勧誘被害	.04	.02	.02
コミュニティ 勧誘被害	.13***	-0.03	.08*
セールス被害	.07*	.04	-0.00
スパム被害	.07*	-0.05	.06
サイト誘導被害	.05	.00	.03

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

注：日記公開範囲、日記表出性の分析は、日記を書いている者のみを対象とした。

プロフィール上での個人情報公開については、得られた主な結果は以下の三点にまとめられる。

(a) すべての個人情報の公開範囲と、未知他者連絡被害、コミュニティへの勧誘被害、マイミク勧誘被害に正の相関が見られた。(b) 内容の表出性は、すべての迷惑行為の被害経験と正の相関が見られた。(c) 画像設定は、未知他者連絡被害、マイミク勧誘被害と正の相関が見られた。一方、画像に自分が映っている程度は、迷惑行為の被害経験と関係が見られなかった。

次に、日記上での個人情報公開と迷惑行為の被害経験との関連を調べるために、日記に関する個人情報公開と迷惑行為の被害経験との相関係数を算出した。結果を Table 10 に示す。得られた主な結果は以下の三点にまとめられる。(a) 日記執

筆の頻度は、八つの迷惑行為の被害経験と正の相関が見られた。(b) 内容の表出性は、四つの迷惑行為の被害経験と正の相関が見られた。(c) 日記公開範囲は、迷惑行為の被害経験と関係が見られなかった。

考察

本研究の目的は、SNS 上での個人情報公開を規定する心理的要因を検討すること、個人情報公開と迷惑行為の被害経験の関係を検討することであった。個人情報公開として、個人情報を他者に公開している範囲と、内容の表出性に着目した。得られた結果について、それぞれ整理、考察する。

個人情報公開を規定する要因 個人情報公開を規定する要因を検討するにあたり、特にプライ

プライバシー意識に着目した。その結果、性別や職業などの属性情報、本名や顔写真などの識別情報にプライバシー意識の低い者は、プロフィールにある項目の個人情報や日記を多くの他者に公開しており、また、プロフィールや日記での内容の表出性が高いことが示された。この結果は予測通りであり、SNS 上での個人情報公開に自己情報へのプライバシー意識が影響すると解釈される。そして、これまでにあまり明らかにされていなかった、プライバシー意識が対人行動に影響する可能性を示唆する結果であると位置づけられる。

また、本研究では、個人情報公開を規定する要因として、人気希求や犯罪被害リスク認知という個人特性にも着目した。人気希求については、人気希求は日記への表出性や、個人情報の公開範囲に影響していなかった。このような結果が得られた理由として、人気希求はネット上での個人情報の閲覧者となりうる不特定多数の者から人気を得たいという欲求ではないことが影響した可能性が考えられる⁶。したがって、人気希求が高くても、不特定多数の者にまで個人情報を公開する意識につながらなかったと推察される。一方、人気希求が高いほど、プロフィールでの表出性が高いという結果も得られている。この結果は、人気希求の高い者は、Facebook 上で多くの個人情報を公開し

ていることを示した、Christofides, et al. (2009, 2010) の知見と整合する。これらの結果を併せると、人気希求の高さは、個人情報を公開する範囲ではなく、公開する内容に影響する可能性も考えられる。言い換えれば、人気希求の高い者が、準拠集団の成員となりうる者からの人気を得られるようにプロフィールを作成している可能性が考えられる。この可能性は、人気希求の高い者がプロフィールを作成している際に閲覧者として想定している他者を検討することで明確にできると考えられる。

犯罪リスク認知については、犯罪不安へのリスク認知が低いほど、個人情報を多くの他者に公開しているという結果や、プロフィールや日記での内容の表出性が高いという結果は得られなかった。この理由として、ミクシィ利用者が、SNS での情報公開が犯罪と直接的に結びつくこと認識していないことが影響した可能性が考えられる。加えて、犯罪不安へのリスク認知が高いほど、プロフィール内容の表出性や日記執筆頻度が高いという、予測とは逆の結果も得られた。この結果から、犯罪不安へのリスクを認識しているほど、犯罪への不安に対処するために SNS 上で情動表出(カタルシス)を行っている者がいる可能性が考えられる。心理的ストレスへの対処方略にも、“誰かに話を聞いてもらい気を静めようとする”といった、カタルシスに関する方略が含まれている(神村・海老原・佐藤・戸ヶ崎・坂野, 1995)。

個人情報公開を規定する要因に関する以上の結果を整理すると、SNS 上での個人情報公開を規定する要因として、自己情報へのプライバシー意識が大きな影響を及ぼすと考えられる。

個人情報公開と迷惑行為の被害経験との関連
SNS 上での迷惑行為の被害経験には、未知他者連絡被害、コミュニティへの勧誘被害、マイミク勧誘被害といった、他者から望まない連絡を受けるという被害が、他の被害に比べて相対的に経験頻

⁶ この可能性を示す根拠として、人気希求と自己情報へのプライバシーの関係に関する結果を示す。太幡・佐藤(2011)では、人気希求が高いほど、親しい友人に対し“外見身体的特徴”に、顔見知り程度の相手に対し“最近過去の経験”、“所有物”、“外見身体的特徴”にプライバシーを感じる程度が低かった。一方、本研究では、上記の自己情報と関連すると想定される、MPS-I の“自伝的情報”へのプライバシー意識の高さと人気希求には有意な相関は見られなかった($r=.02, ns$)。MPS-I ではネット上の匿名の不特定多数の人に回答を求めており、親しい友人や顔見知り程度の相手といった準拠集団以外の相手へのプライバシー意識を測定するものであると考えられる。したがって、本研究と太幡・佐藤(2011)の結果の違いは、人気希求が準拠集団の成員から人気を得たい欲求に限定されていることが影響したと推察される。

度が高かった。そして、個人情報を多くの他者に公開し、また、内容の表出性が高いほど、これらの迷惑行為の被害経験が多いことが示された。したがって、SNS上で他者から望まない連絡を受けるという迷惑行為の被害に遭う原因には、個人情報の公開の仕方が関わっていると考えられる。

さらに、プライバシー意識の低さが自己情報を多くの他者に公開し、また、内容の表出性を高めているという結果と併せると、迷惑行為の被害経験について以下のプロセスが想定される。すなわち、SNS上において、ある自己情報へのプライバシー意識が低いと、その自己情報を多くの他者に公開しやすくなるため、他者から望まない連絡を受けるという迷惑行為の被害に遭いやすくなるというプロセスである。したがって、SNS上での迷惑行為の被害を抑止するために、プライバシー意識の点で介入することが可能であることが示唆される。

本研究の貢献と今後の展望 本研究は、これまで着目されることの少なかった SNS 上での個人情報公開について詳細に検討した研究である。本研究の貢献として、以下の三点が挙げられる。第一に、SNS 上での個人情報公開を規定する心理的要因として、自己情報へのプライバシー意識の影響力が大きいことを示した点である。第二に、SNS 上での他者から望まない連絡を受けるという迷惑行為被害と個人情報公開に関連があることを示した点である。さらに、第三の点として、プライバシー意識が個人情報公開を介して迷惑行為の被害経験を促進させている可能性を示した点も挙げられる。これらの結果は、個人情報公開の観点から SNS をより有効かつ安全に使うための有益な知見を示しているといえよう。

一方、本研究の今後の展望として、以下の二点が挙げられる。第一に、個人情報公開と迷惑行為の被害の因果関係を明確にすることである。本研

究は、一時点での調査であるため、プライバシー意識が自己情報の公開を介して迷惑行為被害に影響するという因果関係の存在を明確に示すことができない。したがって、上記の因果関係を明確にするために、パネル調査を実施することが必要となると考えられる。

第二に、SNS をより有効かつ安全に使う示唆を社会に広く還元するために、特定の年齢層に特化し SNS での個人情報公開について詳細に検討することである。特に、中高生などの若年層にも多くの利用者がいる 10 代では、ネットいじめなど若年層に特有の迷惑行為が存在すると考えられる。したがって、SNS での個人情報公開に関する研究として 10 代に特化した調査を実施することは、SNS をより有効かつ安全に使う方法を社会に還元するという点で重要であると考えられる。

引用文献

- Altman, I. (1975). *The environment and social behavior: Privacy, personal space, territory, crowding*. Monterey, CA: Brooks/Cole.
- Burgoon, J. K., Parrott, R., LePoire, B. A., Kelley, D. L., Walther, J. B., & Perry, D. (1989). Maintaining and restoring privacy through communication in different types of relationships. *Journal of Social and Personal Relationships*, **6**, 131-158.
- Christofides, E., Muise, A., & Desmarais, S. (2009). Information disclosure and control on facebook: Are they two sides of the same coin or two different processes? *Cyber Psychology and Behavior*, **12**, 341-345.
- Christofides, E., Muise, A., & Desmarais, S. (2010). The effect of personality factors in predicting information disclosure online. Poster session presented at the 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, Las Vegas, NV.
- DeCew, J. W. (1997). *In pursuit of privacy: Law, ethics and the rise of technology*. Ithaca, NY: Cornell University Press.
- 岩田紀 (1987). 日本人大学生におけるプライバシー志向性と人格特性との関係 社会心理学研究, **3**, 11-16.
- 株式会社ミクシィ (2011). 事業内容 株式会社ミクシィ < <http://mixi.co.jp/profile/business/> > (2011年10月29日)
- 神村栄一・海老原由香・佐藤健二・戸ヶ崎泰子・坂野雄二 (1995). 対処方略の三次元モデルと新しい尺度 (TAC-24) の作成 教育相談研究, **33**, 41-47.
- 川浦康至・坂田正樹・松田光恵 (2005). ソーシャルネットワーク・サービスの利用に関する調査——mixi ユーザの意識と行動——コミュニケーション科学, **23**, 91-110.
- 小寺敦之 (2009). 若者のコミュニケーション空間の展開——SNS“mixi”の利用と満足、および携帯メール利用との関連性—— 情報通信学会誌, **27**, 55-66.
- Marshall, N. J. (1972). Privacy and environment. *Human Ecology*, **1**, 93-110.
- Santor, D. A., Messervey, D., & Kusumakar, V. (2000). Measuring peer pressure, popularity, and conformity in adolescent boys and girls: Predicting school performance, sexual attitudes, and substance abuse. *Journal of Youth and Adolescence*, **29**, 163-182.
- 佐藤広英・太幡直也 (2009a). プライバシーを意識する内容の分類 (1) ——KJ 法による発言内容の分類—— 社会言語科学会第 23 回研究発表論文集, 186-189.
- 佐藤広英・太幡直也 (2009b). プライバシー次元尺度作成の試み (1) 日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第 56 回大会合同大会発表論文集, 524-525.
- 佐藤広英・太幡直也 (2011a). インターネット版プライバシー次元尺度作成の試み 日本グループ・ダイナミクス学会第 58 回大会発表論文集, 114-115.
- 佐藤広英・太幡直也 (2011b). インターネットにおけるプライバシー意識と対策行動, 被害経験の関連 日本社会心理学会第 52 回大会発表論文集, 398.
- 太幡直也・佐藤広英 (2009). プライバシーを意識する内容の分類 (2) ——発言内容の量的分析—— 社会言語科学会第 23 回研究発表論文集, 206-209.
- 太幡直也・佐藤広英 (2010). プライバシー意識がプライバシーを感じる内容, 理由に与える

影響 パーソナリティ研究, **18**, 241-243.

太幡直也・佐藤広英 (2011). リスク行動に関する要因が自己情報へのプライバシー意識に与える影響 日本感情心理学会第 19 回大会・日本パーソナリティ心理学会第 20 回大会合同大会発表論文集, 28.

Westin, A. F. (1967). *Privacy and freedom*. New York: Atheneum.

山口竜一・鳥海不二夫・石井健一郎 (2009). SNS のユーザ行動分析 情報処理学会研究報告, **2009-ICS-154(13)**, 69-74.

吉田圭吾・溝上慎一 (1996). プライバシー志向性尺度 (本邦版) に関する検討 心理学研究, **67**, 50-55.